

# 今年も桜満開！笑顔満開！



今年も新規採用職員と異動職員を迎える、各部門ともこれまでの取り組みに新たな視点と工夫を加えて一層の進化を目指して動き始めました。その第一に掲げるのは、職員チームの一體化です。寿光園の名の下にその名を背負った各チームの目標が既に掲げられていました。このチーム目標に対して職員一人ひとりがどんな役割を担っていくのか、そこに個人目標を言葉にして明らかにすることが求められました。これは寿光園としてのチーム全体の役割と課題を共有し、チームの一員として何をなすべきかの自覚の表明とチームへの約束の言葉です。更に、この個人目標を具体化するための手段と方法を加えた実行計画とスケジュールの明記が求められました。自分の目標と計画を意識化するとともに、上司との面接をとおしてチームに表明して実践し具体化する手続き（過程）がとられました。自らの思いを言葉にしてそれに向かって努力すること、即ち自らが有言実行のチームの一員（クルー）になることにしました。流れる水は腐らないと言われますが、流れに任せているだけではなく自ら進むべき目的地との方向を定め、チームの力又一体となつて漕ぎ進めることができると方法を探ることにしたのです。これは職員の所属する個別チームの一体化を図ることは勿論のこと、そのチーム力量の向上（パワーアップ）を推進す

るプロジェクトであり、寿光園というサービス集団の質を左右する大命題であります。利用者さんから求められる介護・自立支援サービスを如何に提供てきて、地域からの信頼を得たプロ集団として認められることが出来るか、大きな岐路に立っているという現状認識があるからに他なりません。『それは、今までしょ』と題した拙文をこの「寿光園の屋根の下」に寄せてから早四年。年々職員確保と育成の困難さや、利用者さんと地域から求められる専門性が増大する中で、寿光園が確信を持って進むべき介護・自立支援のための知識と技術と実践の土台と柱とすべき考え方とその方法がやっと明らかになつてきました。そしてサービスの要である職員が如何に成長できる職場組織であるかにその全てが係っていることも同様です。それは先ず、チームリーダーが何を目標にどんな計画を立てるかであり、例えば安全と安心を求めて寿光園を信頼した多くの利用者さんに乗り込んで頂いた力又一を、クルー（職員）が一体となつてどちらに向かってオールを漕いでいくのかと言うことです。これはこれでそれはそれと言つた区分や分離ではなく、一体となつた或いは混沌とした中で目標を見失うことなく協調と協働していく姿勢と方法にこそ、チーム力の強化につながる大切な鍵があるのでないかと考えていきます。

# 寿光園の屋根の下

第133号  
平成29年5月  
発行元  
高清水寿光園

## 新たな目標と計画、そして実践

施設長  
今泉  
博雄

